

県営ほ場整備事業(上戸地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

珠洲市

南 方 遺 跡

2 0 0 5

石 川 県 教 育 委 員 会
(財)石川県埋蔵文化財センター

南^{みなみ} 方^{かた} 遺 跡

2005

石 川 県 教 育 委 員 会
(財)石川県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は南方遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は珠洲市上戸町南方地内である。
- 3 調査原因は県営ほ場整備事業（上戸地区南方工区）であり、同事業を所管する石川県農林水産部農業基盤整備課（旧農地整備課、以下略）が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成13（2001）年度から平成16（2004）年度に実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。
- 5 調査に係る費用は、石川県農林水産部農業基盤整備課と、文化庁の補助を受けて石川県教育委員会が負担した。
- 6 現地調査は平成13（2001）年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。
期 間 平成13（2001）年8月3日～同年9月5日
面 積 260㎡
担当課 調査部調査第2課
担当者 宮川勝次（主事）、加藤克郎（主事）
- 7 出土品整理は平成15（2003）年度に実施し、企画部整理課が担当した。
- 8 報告書の刊行は平成16（2004）年度に実施し、調査部調査第2課が担当した。
執筆・編集は宮川（調査部調査第3課主事）が行った。
- 9 調査には下記の機関、個人の協力を得た。
石川県農林水産部農業基盤整備課、珠洲市教育委員会
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1)挿図中の方位は磁北をさす。
 - (2)水平基準は海拔高であり、T. P.（東京湾平均海面標高）による。
 - (3)出土遺物番号は挿図と写真で対応する。

目 次

第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第3節 出土品整理・報告書刊行	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 遺跡の位置と地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	8
第1節 調査区の設定	8
第2節 基本層序	8
第3節 遺構と遺物	8
第4節 ま と め	9

挿 図 目 次

第1図 調査区周辺と位置図 (S=1/5,000)	2	第5図 出土土器実測図 (S=1/3)	11
第2図 遺跡の位置図	3	第6図 出土木製品実測図1 (S=1/3・1/6)	12
第3図 周辺の遺跡 (S=1/25,000)	6	第7図 出土木製品実測図2 (S=1/3)	13
第4図 調査区全体図 (S=1/200)			
土層断面図 (S=1/60)	10		

表 目 次

第1表 周辺の遺跡一覧	7	第3表 木製品観察表	14
第2表 土器観察表	14		

写 真 図 版

図版1 4区 遺物出土状況	図版4 12区 調査区東壁土層断面(西から)
6区 遺物出土状況	3～5区 完掘状況(南から)
図版2 1区 調査区東壁土層断面(西から)	図版5 6～7区 完掘状況(北から)
3区 調査区東壁土層断面(西から)	9～12区 完掘状況(南から)
図版3 6～7区 調査区東壁土層断面(西から)	図版6 出土遺物写真
9区 調査区東壁土層断面(西から)	図版7 出土遺物写真
	図版8 出土遺物写真

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

南方遺跡の発掘調査は、珠洲市上戸町南方地内における県営ほ場整備事業（上戸地区南方工区）に係るものである。同事業計画に伴い、石川県教育委員会文化財課と石川県農林水産部農地整備課（現農業基盤整備課）との間で協議が行われ、事前に試掘調査を行うこととなった。試掘調査は平成13(2001)年2月20日～22日に約14haを対象に行われ、調査区域の一部で埋蔵文化財を確認し、本遺跡はその際、新たに発見された遺跡である。そこで、県教育委員会文化財課は農地整備課と協議の上、工事着手前に発掘調査を実施することとなった。

本遺跡の発掘調査は、平成13(2001)年度に石川県教育委員会から財団法人石川県埋蔵文化財センターに委託され、排水路建設工事に伴い遺跡が損壊を受ける260㎡を対象に実施した。

第2節 調査の経過

発掘調査は財団法人石川県埋蔵文化財センター調査部調査第2課宮川勝次、加藤克郎が担当し、平成13(2001)年8月3日～同年9月5日にかけて実施した。

8月3日(金)に発掘機材を搬入し、6日(月)に重機による表土除去作業を行う。7日(火)からは調査区内の湧水が激しいことから排水溝掘削を行い、その後、グリッド杭打ち作業に入る。8日(水)からは遺構検出作業を開始し、一定量の須恵器、土師器、珠洲焼、用途不明の部材が出土する。遺構は希薄である。また、湧水に悩まされ、一晩おくと調査区内がプールの状態になることから、1グリッド毎に絞って掘削作業を行い、作業の効率を図る。

13日(月)～15日(水)のお盆休み後、16日(木)から作業を再開する。5～7区、9～12区の遺構検出作業を行い、4～7区にかけては他に比べて遺物量が多い事を確認する。20日(月)からは作業員を追加し、さらに作業ペースを速める。22日(水)からは9～12区の調査区平面図、東壁土層断面図実測、完掘写真撮影を行い、当グリッドの作業は終了する。23日(木)からは5～7区の遺構掘削作業と並行して、1～4区の遺構検出作業を行い、28日(火)からは1～7区の平面図等の実測作業を行い、9月5日(水)に発掘機材を撤収し、作業を終了した。

第3節 出土品整理・報告書刊行

出土品整理は、企画部整理課において、平成15(2003)年度から実施した。平成15年度に土器等の洗浄を行い、平成16年1月16日からは記名・分類・接合に着手し、1月20日から出土品の実測・トレース作業、1月27日に遺構図トレースを行い、終了した。

報告書刊行業務は、平成16年度に原稿執筆、図版作成、出土品の写真撮影、編集・校正作業を行い、報告書の刊行に至る。



第1図 調査区周辺と位置図 (S=1/5,000)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

南方遺跡は石川県珠洲市上戸町南方地内に所在する。珠洲市は県の先端部、日本海に突出した能登半島の北東端に立地しており、北・東・南の三方は日本海に面し、西から南西方にかけては輪島市、能登町と接する。総面積は247.19平方km、その内訳は山林約58%、田畑約35%、宅地約5%である。人口は20,474人(平成15年)である。

市周辺の地形は宝立山地、奥能登丘陵、海成段丘群、沖積低地に大別でき、市域の大部分を山地と丘陵が占めている。宝立山地は宝立山(標高468.6m)を最高峰とする、標高300~400mの比較的良く開析された低山性の小起伏山地であり、地質的には新第三紀の火山岩類と堆積岩からなる。奥能登丘陵は、宝立山地の東南側をとりまくように分布し、大部分が標高250m以下の丘陵地であり、地質的には新第三系の諸岩層から成っている。

海成段丘は第四紀更新世後期に形成された中位段丘とみられるものであり、段丘面の海拔高度は20~60mである。段丘面は薄い砂質もしくは砂礫質であるが、埋積谷部分ではやや厚い泥質の堆積物がみられ、半島先端部から市南部にかけての海側に連続的に分布する。河成段丘は若山川、鶴岡川にみられるが、特に若山川下流部に広く分布しており、高低2段にわたって発達している所が多い。低地は谷底平野・扇状地、海岸平野・三角州、砂丘がみられるが、分布の割合は低い。谷底平野・扇状地は若山川、竹中川、盤若川、鶴岡川の各河川流域に分布しており、その大部分は谷底平野が占める。海岸平野は砂丘もしくは砂洲の発達により形成された潟が埋積したものであり、海岸沿いに広く分布している。砂丘は若山川の東側と半島先端部に分布しており、浜(砂礫で覆われた平坦地)は極くわずかであるが存在している。

南方遺跡は市中心部から少し南寄りの水田地帯に所在し、北西方は宝立山地をとりまく丘陵が広がり、東方は飯田湾に面し、南方は竹中川が東流し日本海に注いでいる。遺跡は竹中川下流域に位置しており、周辺には縄文時代から近世の遺跡が存在する。また、当遺跡から南東約100mには南方の産土神である柳田神社が鎮座しており、北約1kmには上戸気多神社、その別当寺である高照寺が所在する。高照寺門前には県指定記念物である倒スギが存在する。



第2図 遺跡の位置図

第2節 歴史的環境

珠洲の歴史において、人々の営みが確認できる最初の痕跡は、若山川流域の若山町井林や三崎町雲津から出土した尖頭器であり、これらは、旧石器時代晩期もしくは縄文時代草創期の所産と考えられている。その後、高波ふるや遺跡が伏見川流域に縄文時代前期末から後期中葉にかけて存続し、貝塚も確認されている。鶴岡川流域では中期前葉から遺跡が形成され始めており、中期後葉まで存続していたと考えられる郷釜の前遺跡や中期後葉から後期前葉にかけての土器が出土している柏原垣内高瀬畑遺跡(73)等が所在する。盤若川上流の台地上には加護天池遺跡が立地しており、中期末葉から後期初頭にかけての土器が出土している。ほとんどの遺跡が丘陵地に立地しているが、縄文海進、弥生海退に移る転換期を経て、後期以降、沖積平野にも進出し始める。後期中葉から後葉を主体とする鶴島どうがも遺跡や晩期まで存続した北方山岸遺跡(19)等がある。

弥生時代は縄文時代、後の古墳時代と比べて遺跡数は少なく、柳描文土器が出土した高波フルヤ遺跡の他は、大半が後期もしくは終末期に属する遺跡である。若山川流域の出田遺跡(3)や経念遺跡、鶴岡川流域の柏原ミツハシ遺跡(67)等がある。

古墳時代に入り、弥生時代に伝わったとされる稲作の普及により水田開発に伴う水利権の利害関係を生み出し、それらをめぐり、有力な支配者層が地域統合を進めるなかで、やがて古墳群を築造し始めるようになる。若山川左岸の丘陵部を中心に、総数150基確認されている。5世紀末頃から築造された永禪寺古墳群(36)は竹中川北岸に派生した丘陵上に分布しており、調査が行われた1号墳と2号墳は共に組合せ式箱型石棺が埋置されており、棺内からは刀剣類の他、胡籬(1号墳)が出土している。6世紀後半頃からは横穴群が急増し、現在、確認されているもので200基にも上る。これらは若山川、盤若川等の各河川によって形成された谷平野ごとにまとまって分布しており、その大半が飯田湾側に存在する。竹中川下流域の永禪寺横穴群(38)、盤若川下流域の谷崎横穴群(54)、珠洲地域の横穴分布の南限に位置する南黒丸、鶴島地域には南黒丸八幡A横穴群、南黒丸八幡B横穴群、鶴島横穴群が分布している。7世紀に入ると、竹中川と盤若川の間丘陵に大富古墳群(50)、大富南古墳群(49)が分布する。大富1号墳は横穴式石室を有し、石室内からは鍍金した鍔金具を持つ刀、金環等が出土しており、4号墳からは金銅製双竜式環頭大刀が出土している。また、大富南古墳群でも横穴式石室がみとめられ、須臾器や土師器が出土している。

古代に入ると、これまで越前国の一部であった珠洲郡は、養老2年(718年)5月 羽作・能登・鳳至の三部とともに能登国となり(『続日本紀』)、日置・草見・若倭・大豆の四郷と余戸で構成され始める。そのうち、現地域の比定地がほぼ確定されているのは若山川下流域とする若倭郷だけであるが、それ他にも同様に、河川流域を中心に設置されていたと考えられ、若山川下流域には官衙関連遺跡と考えられている北方E遺跡(22)が存在している。また、古墳時代中頃から平安時代後期にかけての能登半島は日本海側有数の土器製塩地帯であり、珠洲地域においても、市北端部の三崎町周辺を中心に製塩遺跡が分布する。粟津カンジャバタケ遺跡、森腰遺跡、宇治役場裏遺跡、鶴島遺跡等が知られる。

中世の珠洲地域は承久3年(1221年)作成の「國中四郡庄郷保公田々数目録」によれば、若山庄・珠珠正院・蔵見村・高屋浦・方上保等の庄・院・村の所領となっており、特に若山庄は能登国最大規模をほこっていた。若山庄の成立は11世紀末に能登国司に着任した源俊兼とその子兼季が私領化した土地を、康治2年(1143年)、崇徳上皇の後藤原聖子に寄進したことによる。その寄進状によると「南は珠珠正院真脇村、北は同院八条袋、町野院境山、東は海をそれぞれ限る」とあり、庄域は八条袋の比定地については諸説があるため断定はできないが、現在の珠洲市域と南隣の鳳珠郡能登町(旧：珠洲郡内浦町)のほ

ば全域を比定できると考えられている。中世後期には、この若山庄は松波川流域の木郎郷、鶴飼川流域の直郷、若山川上・中流域の若山郷、若山川下流域の飯田郷、日本海沿岸に面した西海浦の四郷一浦から構成されていたとされる。

中世の珠洲地域で特筆される物の一つとして珠洲焼が知られ、若山郷等の各郷が深く関わっていたと考えられている。庄域には現在確認されている珠洲焼窯跡の大半が分布しており、庄園領家日野家の祈禱所である法住寺や白山神社が所在し、庄政所が置かれていたと思われる直郷では、法住寺寺域内から窯跡が確認されており、境内の林木伐採を禁止する旨を出して、燃料供給源を確保していることなどから、珠洲焼の生産や経営にあっていたことは想像に難くない。法住寺以外の地域でも、窯跡の所在するところには中世有力寺院が存在しており、それらが、何らかの形で生産・流通を担っていたのであろう。窯跡は市全域に散在しており、鶴飼川上流域に西方寺窯跡群、鳥屋尾垣内窯跡、柏原郷の前窯跡群、盤若川中流域には法住寺窯跡群、下流域には春日野大冨窯跡群(55)、海岸線から約2.5km内陸部には最古の窯跡である寺社カメワリ坂窯跡群(41)、能登半島北東部には寺家黒畑窯跡群、大屋ヒヤマ窯跡群、外浦側に唯一、所在する外浦馬繰亀ヶ谷窯跡がある。

集落遺跡として、南黒丸遺跡では13～14世紀代の掘立柱建物跡、井戸跡が多数確認され、柏原A遺跡(71)では14世紀を中心に集落が展開しており、また、飯田町遺跡(6)、柏原ミツハシ遺跡、柏原ジツチン遺跡(66)、鶴島遺跡等が知られる他、中世城郭である飯田城山遺跡(5)、正院川尻城跡がある。

参考文献

- 石川県教育委員会 1992 『石川県遺跡地図』
- 石川県農林水産部耕地整備課 1965 『土地分類基本調査 宝立山・能登飯田・珠洲町』
- 石川県立博物館編 2000 『能登最大の中世荘園 若山荘を歩く』
- 伊藤雅文ら 1993 『大冨南古墳群発掘調査』
- 珠洲市史編纂専門委員会編 1976 『珠洲市史第1巻』自然・考古・古代
- 珠洲市史編纂専門委員会編 1978 『珠洲市史第2巻』中世・寺院・歴史考古
- 珠洲市史編纂専門委員会編 1979 『珠洲市史第4巻』神社・製塩・民俗
- 珠洲市史編纂専門委員会編 1980 『珠洲市史第6巻』通史・個別研究
- 松山温代ら 1995 『出田遺跡』
- 安 英樹ら 1996 『経年遺跡』
- 吉岡康暢 1991 『中世須恵器の研究』吉川弘文館



第3図 周辺の遺跡 (S=1/25,000)

番号	遺跡名	所在地	立地	時代	出土品	備考
11	010187 野上石室(石室遺跡)	熊本市西町	跡目	縄文・中世	打製石斧、土器	
2	010496 山田石遺跡	熊本市山田町	平地	古墳	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
3	010495 山田遺跡	熊本市山田町	平地	弥生	弥生土器	1992年(旧)山田埋蔵文化財センター発掘調査。 柱石の位置が異なる。遺跡。
4	010494 熊田遺跡	熊本市山田町	丘陵部	古墳		柱石の位置が異なる。遺跡。
5	010493 熊田山遺跡	熊本市山田町	山地	室町		
6	010492 熊田山遺跡	熊本市山田町	平地	中世	鉄刀、土師器	1990年(旧)山田埋蔵文化財センター発掘調査。
7	010491 北方下野遺跡	熊本市北方町	平地	縄文	縄文土器、土器	
8	010490 北方土遺跡	熊本市北方町	平地	縄文	縄文土器	1990年(旧)山田埋蔵文化財センター発掘調査。
9	010489 北方うれの遺跡	熊本市北方町	台地	縄文	磨製石斧	
10	010488 上野崎下平古墳群	熊本市北方町	丘陵	古墳		円筒形。
11	010486 北方池の下野遺跡	熊本市北方町	台地	古墳		
12	010485 北方遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	旧北方日光社→C遺跡を含む。1903、96、98年(旧)熊本市教育委員会調査。
13	010484 北方C遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	弥生土器、土師器、鉄刀、土師器	1997年(旧)熊本市教育委員会発掘調査。
14	010483 北方B遺跡	熊本市北方町	平地	弥生→近世	銅鏡、土師器、鉄刀、土師器	1997年(旧)熊本市教育委員会発掘調査。2000年(旧)山田埋蔵文化財センター発掘調査。
15	010482 北方野遺跡	熊本市北方町	平地	古墳→近代	銅鏡、土師器、鉄刀、土師器	1997年(旧)山田埋蔵文化財センター発掘調査。
16	010481 北方池の下野跡	熊本市北方町	台地	縄文	磨製石斧、土器	2003年(旧)山田埋蔵文化財センター発掘調査。
17	010480 上野丘陵古墳群	熊本市北方町	丘陵	古墳		
18	010479 赤土下野遺跡	熊本市北方町	平地	近世(江戸)		
19	010478 北方山遺跡	熊本市北方町	平地	縄文	土器(赤土)、磨製石斧、石鏃等	
20	010469 大空遺跡	熊本市北方町	台地	不詳		
21	010468 北方山B遺跡	熊本市北方町	平地	弥生、平安	土師器	
22	010467 北方A遺跡	熊本市北方町	平地	古墳→近代	銅鏡、土師器、土器、鉄鎌	1988年(旧)熊本市教育委員会発掘調査。2000年(旧)山田埋蔵文化財センター発掘調査。
23	010466 赤土野遺跡	熊本市北方町	丘陵部	縄文		
24	010465 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	縄文	打製石斧	
25	010464 北方赤土B遺跡	熊本市北方町	平地	古墳	土師器	
26	010463 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	縄文	磨製石斧	単独出土。
27	010462 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	縄文	土師器	
28	010461 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
29	010460 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
30	010459 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
31	010458 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
32	010457 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
33	010456 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
34	010455 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
35	010454 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
36	010453 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
37	010452 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
38	010451 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
39	010450 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
40	010449 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
41	010448 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
42	010447 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
43	010446 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
44	010445 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
45	010444 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
46	010443 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
47	010442 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
48	010441 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
49	010440 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
50	010439 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
51	010438 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
52	010437 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
53	010436 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
54	010435 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
55	010434 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
56	010433 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
57	010432 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
58	010431 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
59	010430 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
60	010429 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
61	010428 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
62	010427 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
63	010426 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
64	010425 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
65	010424 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
66	010423 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
67	010422 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
68	010421 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
69	010420 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
70	010419 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
71	010418 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
72	010417 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。
73	010416 赤土野遺跡	熊本市北方町	平地	弥生・平安	銅鏡、土師器	熊田聖博氏に発見。

第1表 周辺の遺跡一覧

第3章 調査の成果

第1節 調査区の設定

調査区は排水路設置箇所を対象に、幅2m、総距離130m、面積260㎡である。グリッドは調査区南端部中央付近に任意に基準杭を設け、そこから北方向のセンターラインに10m間隔を基本に設定しており、調査区南側から1区として、北端が12区となる。ただし、調査区の制約上、1区は9m、7区は7m、12区は9mとする。なお、8区間は既存の用水路を生かす必要性から掘削は不可能であった。

第2節 基本層序

今回の調査では、調査区東壁等に6本のセクションを設定して層序観察を行った。基本層序は上層から耕作土の灰褐色粘質土、褐灰色砂質土、包含層の濁暗灰色粘質土と褐灰色粘質土、地山の淡灰色細砂である。包含層は第4図土層断面6・7・13・17層に対応しており、全区間で確認でき、その厚さは約30cmで、多量の自然木や木製品が混じる。また、土層断面図e-f間や9区間の地山層からは原位置を保っているかは不明であるが、大木の自然木が横倒しの状態で確認できた。地形は検出面で標高2.9～3.0mとほぼ一定の高さであり、顕著な高低差は確認できないが、周辺の地形をみれば、東方の丘陵部から西方の海側にかけて傾斜する。また、調査作業を遅滞させた要因の一つであるが、丘陵側から流れ込む水により調査区を含めた周辺は湧水地帯である。

第3節 遺構と遺物

遺構は全体的に密度が薄く、3～7区にかけての落ち込み、6区で小穴、溝を確認した他は9～11区にかけて小穴が散見されたにとどまる。遺構が最も多く確認できた6区は他の区間に比べて、地形がやや高く、小穴は直径、深さ共に約20cmの規模である。落ち込みはその東側を3～7区にかけて東方に緩やかに傾斜しており、検出面との高低差は約10cmである。

遺物は須臾器、土師器、珠洲焼、土埴、用途不明の木製品や部材等が出土しており、その大半が3～7区にかけての落ち込みと包含層からの出土であり、用途不明の部材は調査区のほぼ全範囲にわたって、包含層からも多量に出土していることから、原位置を保っている状態というよりも、周辺からの流れ込みの可能性が高いと考えられる。また、遺構から出土したものは極わずかで小片のため詳細な時期を特定できた遺構はない。

土器は須臾器、土師器が圧倒的に多く、珠洲焼等の陶磁器が極少量出土しているが、土器自体の遺存率は低く、ほとんどのものが細片のものであるため、図化できたものは少ない。第5図1～7、9～13は須臾器環、8は須臾器鉢、19、20は須臾器瓶である。環は有台と無台のものがあり、口縁部が底部からやや直立ぎみに立ち上がり、端部でやや外反する1、2と底部からの立ち上がり方が外方に伸びる3～7、9～13に大別できる。2の底部外面にはヘラ記号が確認でき、4～7と13の底部内面はやや平滑を呈す。8は底部外面に多量の煤が付着している。19は底部から体部下位にかけての内面に自然釉が多量に付着している。20は頸部と体部の接点は認められなかったが、胎土観察等から同一個体の可能性が高い。掲載図以外のもので、底部外面に墨痕が確認できるものがあるが、遺存状態が悪いため判読が不可

能であった。

第5図15～18は土師器椀であり、底部に糸切り痕を残す。15と18は内面をミガキにより調整する。16は椀の底部に穿孔がなされたものであり、底部中心より若干ずれた箇所に開けられている。また、全体の遺物量に比して内黒土師器が定量認められた。

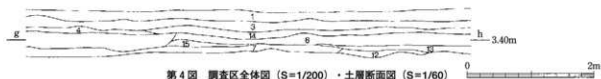
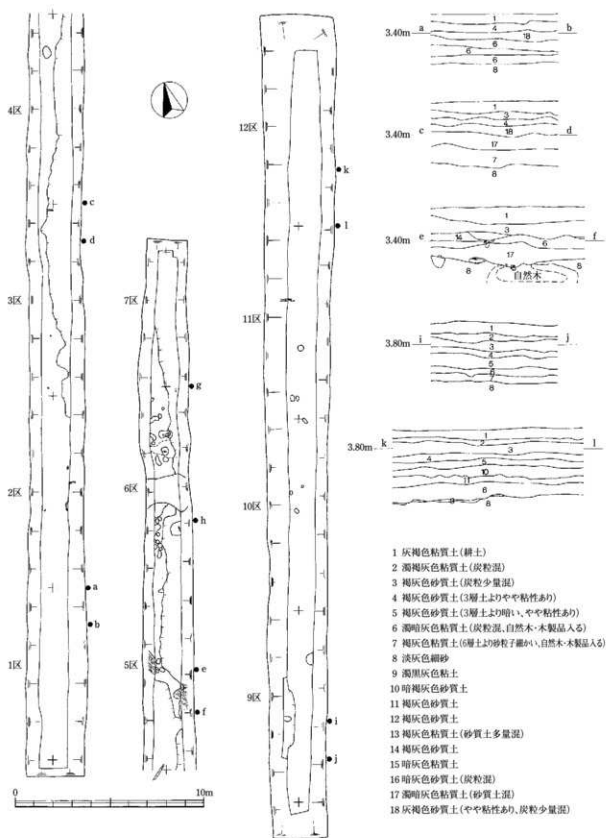
木製品は用途不明の部材も含め多量に出土しており、そのうち遺存状態の良いもの15点を図化した。第6図21～23は曲物底板である。24は皿である。25は連歯下駄であり、一木から台と歯を作りだしている。26は杓子形木製品であり、身の先端を直線的に作り、身幅は狭い。また、側面を直線的に加工する。第7図27は穿孔を施した板状の木製品であるが、遺存状態が悪いこと等から用途不明である。28も27と同様に穿孔を施した板状の木製品であり、穿孔は2孔1対であろうか。29は上部に抉りを入れ、側面を加工して頭部を作り出している。30は板の一端を一回り以上大きく釘頭状に作ったものであり、栓状を呈する。31～33は先端部を両側から削り込んで柄状とし、31はやや湾曲していること等から弓の可能性がある。34は板の一端片を削りだしている。35は柄と刀身を表現しその間に段をつけている木製品であるが用途不明である。

第4節 ま と め

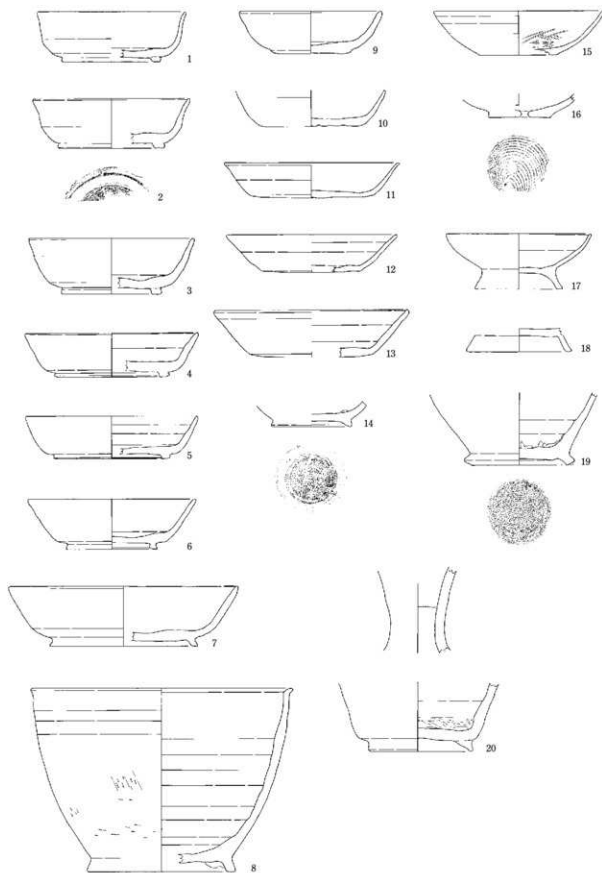
今回の調査では遺構密度が希薄であること等から詳細な遺跡像は把握できなかったが、遺構の状況や周辺の地形を考慮すると、遺跡の縁辺部にあたり、集落域は北西方に展開していたと考えられ、調査区は集落域の東限を示す可能性がある。今回検出した落ち込みは、東方の丘陵部から西方の海側にかけて傾斜している周辺地形に即した形で認められることから、調査区幅が2mと狭いため制約はあるが、自然地形という認識に立てば、海側へと低くなる過程における傾斜変換点とも考えられる。また、遺構がほとんど検出されていない1～2区、9～12区の地山層には腐植物が混じっており、常に滞水状態であったとも推定できる事から、調査区以東は低湿地としての様相を呈していたものと考えられ、調査区を東限とする集落域の存在が推定できる。

南方遺跡は丘陵と海に挟まれた狭小な場所に立地しており、古代から中世にかけての遺物が出土しているが、中心は8世紀から10世紀代と考えられる。周辺には古代の遺跡が所在し、特に、当遺跡から北東方向にかけての若山川以南に集中して認められる。官衙関連遺跡と考えられている北方E遺跡を始め、それと関連する北方B遺跡、北方C遺跡、北方D遺跡や寺社今社遺跡が7世紀～8世紀代を主体に12世紀まで展開しており、時間的に前後関係はあるものの、関連性が注目される。また、少量ではあるが珠洲焼等の陶磁器が出土している事から周辺の中世集落の存在も示唆できると考えられる。

今回の調査では、時期を特定できた遺構がほとんどなく、特に、多量に出土した部材は包含層もしくは落ち込みからの出土であり、これらの時期や性格づけは厳しいものとなった。また、開発の多寡による調査件数にもよると思われるが、現在のところ、市南部飯田湾側に限って言えば、古代の遺跡は南方遺跡から若山川以南の間と舟橋川流域に集中しており、今後、遺跡周辺の調査報告により、南方遺跡の性格づけ、ひいては珠洲地域の古代史像が解明されていくであろう。

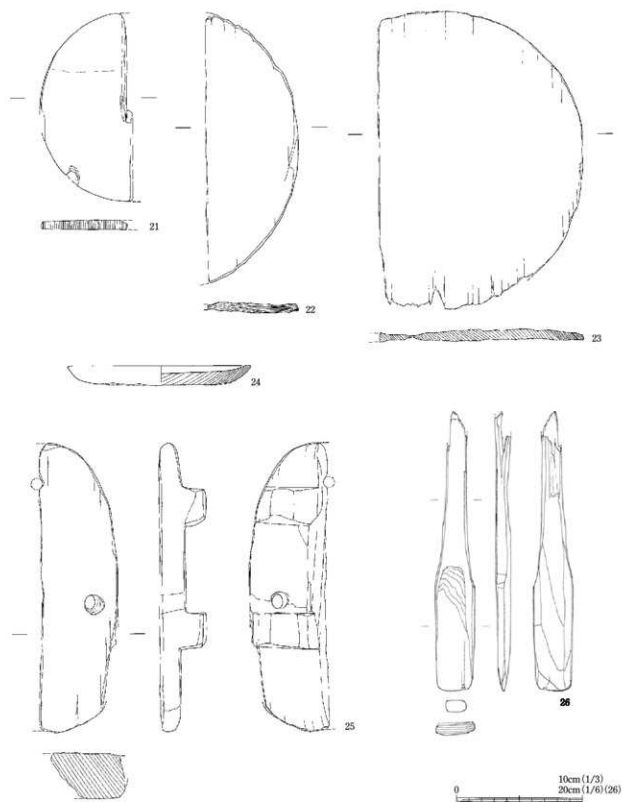


第4図 調査区全体図 (S=1/200)・土層断面図 (S=1/60)

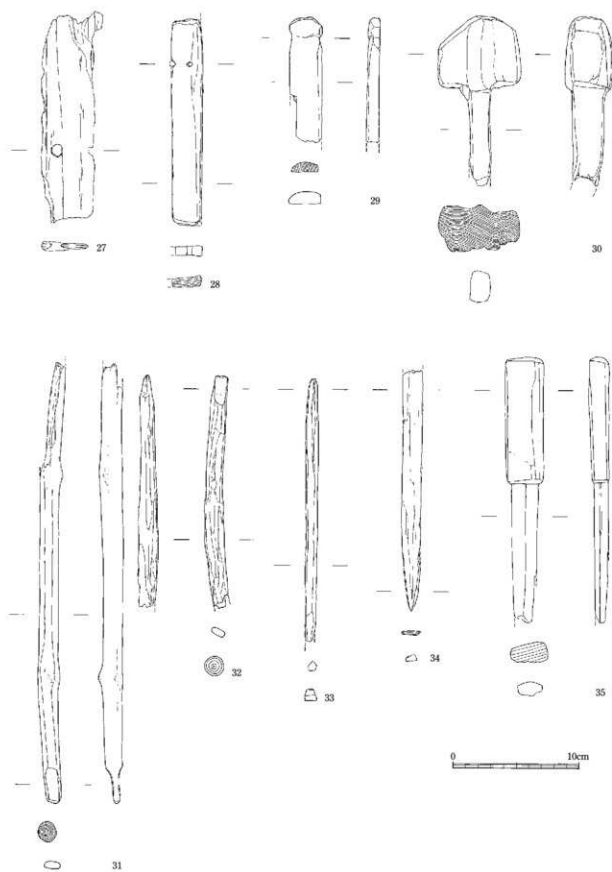


第5図 出土土器実測図 (S=1/3)





第6图 出土木製品実測図1 (S=1/3・1/6)



第7図 出土木製品実測図2 (S=1/3)

報告番号	実測番号	グリッド	造 構	部 種	法量 (mm)		色 調		調 整		境 地	土 質	埋 入 率 / %	備 考		
					口徑	底径	高さ	内面	外面	内面					外面	
1	D7	5区	排水溝	直線部	有台枠	11.8	7.8	4.0	灰	暗灰	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘ ム少切り	良	粗砂・土塊多 、石ハゼ	口径 底径 高さ	外観：一部工具痕？
2	D2	6区	横田面	直線部	有台枠	12.3	8.4	4.0	黄灰	黄灰	同機ナデ	同機ナデ、同機 ヘム少切り？	良	粗砂多、塊土塊 含む、やや暗黒	口径 底径 高さ	ハコ目あり、表面凹凸多 く、内面凹凸、外周：土砂多
3	D1	6区	排水溝	直線部	有台枠	13.0	8.0	4.5	灰	灰	同機ナデ	同機ナデ、同機 ヘム少切り	良	粗砂多、石ハゼ 、塊土塊含む	口径 底径 高さ	ヘム少切り後、高台付 け
4	D3	6区	横田面	直線部	有台枠	13.6	8.5	3.5	灰	オリーブ 灰	同機ナデ	同機ナデ、同機 ヘム少切り、ナデ	良	礫砂、粗砂多、 石ハゼ	口径 底径 高さ	自然懸付着、内面磨 耗
5	D15	6区	排水溝	直線部	有台枠	13.6	9.2	3.4	灰	灰	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘ ム少切り	良	礫1mm前後 多	口径 底径 高さ	10 工具面有り
6	D6	3区	落ち込み	直線部	有台枠	13.4	7.2	4.0	灰	暗灰	ロクロナデ、 底：ナデ	ロクロナデ、底 ：ヘム少切り	良	粗砂多	口径 底径 高さ	粗砂塊状
7	D9	11区	惣倉層	直線部	有台枠	18.9	11.7	4.8	黄灰	灰	同機ナデ	同機ナデ、同機ヘ ム少切り、同機ナデ	良	礫砂、粗砂多	口径 底径 高さ	凹凸著しい
8	D19	7区	排水溝	直線部	無台枠	18.8	11.8	14.5	灰	暗灰	ロクロナデ	ロクロナデ、ナデ リ、ロクロナデ	良	粗砂口徑3mm以 下、海砂付着	口径 底径 高さ	埋付着、付着物有り
9	D8	11区	横田面	直線部	無台枠	11.2	6.30	3.4	暗青灰	灰黒	同機ナデ	同機ナデ、同機 ヘム少切り	良	礫砂、粗砂多、 細砂等	口径 底径 高さ	粗砂塊状(灰色)、自 然懸付着
10	D14	5区	惣倉層	直線部	無台枠	11.8	8.2	2.90	灰	灰	同機ナデ	同機ナデ、同機 ヘム少切り	良	石 灰 (1mm 以 下)、長石	口径 底径 高さ	
11	D16	5区	排水溝	直線部	無台枠	14.0	10.0	2.8	灰黒暗	灰	ロクロナデ	ロクロナデ、底 ：ヘム少切り	良	粗砂(1mm 前 後)、石灰	口径 底径 高さ	粗砂塊状
12	D12	5区	排水溝	直線部	無台枠	13.6	7.9	3.0	灰	灰	ロクロナデ	ロクロナデ、底 ：ヘム少切り	良	粗砂(1mm 前 後)	口径 底径 高さ	粗砂塊状
13	D10	10~ 11区	排水溝	直線部	無台枠	15.3	9.8	3.70	灰	灰	同機ナデ	同機ナデ、同機 ヘム少切り	良	礫砂、粗砂多、海 砂付着、やや暗黒	口径 底径 高さ	自然懸付着
14	D4	6区	惣倉層	海面		6.2	2.20								口径 底径 高さ	粗砂多、塊土塊 多
15	D18	4区	落ち込み	土留部	無台枠	13.6	6.0	3.5	黒	灰白	ミガキ	ロクロナデ、赤 切り	良	粗砂(0.5mm 以 下)、海砂付着	口径 底径 高さ	
16	D20	不明	表土除去	土留部	無台枠	4.9	1.90	灰黒	灰黒	ロクロナデ、 底：ヨコナデ	ロクロナデ、底 ：赤切り	良	粗砂(0.5mm 以 下)、海砂付着	口径 底径 高さ	外観：完 好	
17	D5	10区	惣倉層	土留部	有台枠	11.4	7.0	4.4	浅黄暗	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ、底 ：赤切り	良	粗砂(1mm 前 後)、海砂付着	口径 底径 高さ	
18	D17	4区	惣倉層	土留部	有台枠 or 壁	8.4	3.90	黒	浅黄暗	ミガキ	ロクロナデ、赤 切り	良	粗砂(0.5mm 以 下)、海砂付着	口径 底径 高さ	外観：埋付着	
19	D13	5区	排水溝	直線部	無?	8.8	5.80	灰	灰	同機ナデ	同機ナデ、同機 赤切り	良	石 灰 少、長石	口径 底径 高さ	自然懸付着、焼き跡 あり	
20	D11	4~ 5区	惣倉層	直線部	直線部?	8.3	5.50	暗灰	灰	同機ナデ、ナデ	同機ナデ、ナデ	良	海砂付着、石灰、 長石	口径 底径 高さ		

第2表 土器観察表

報告番号	実測番号	グリッド	造 構	部 種	法量 (mm)			備 考
					最大長さ	最大幅	最大厚	
21	4	3区	惣倉層	面物底板	14.8	6.9	0.75	
22	9	5区	排水溝	面物底板	21.3	7.4	0.9	状態不良
23	1	5区	惣倉層	面物底板	23.7	16.4	0.95	
24	2	4区	落ち込み	皿	口径14.0 高さ1.6			
25	6	4区	惣倉層	下版	22.90	6.30	0.40	
26	8	3区	惣倉層	杓子形木製品	44.4	6.3	2.5	
27	10	6区	惣倉層	部材	16.1	4.2	0.6	穿孔
28	15	3区	落ち込み	部材	16.5	2.5	8.5	2孔1対か
29	5	3区	惣倉層	部材	9.9	2.6	1.0	
30	12	1区	排水溝	部材	13.50	6.6	3.8	杓子形木製品か
31	13	5区	惣倉層	部材	35.3	7.0	2.0	弓か
32	14	1区	惣倉層	部材	18.5	1.6	1.6	弓か
33	7	4区	惣倉層	部材	20.90	10.90	0.60	
34	3	6区	落ち込み	部材	19.1	1.6	0.5	
35	11	4区	惣倉層	部材	21.1	3.1	1.6	

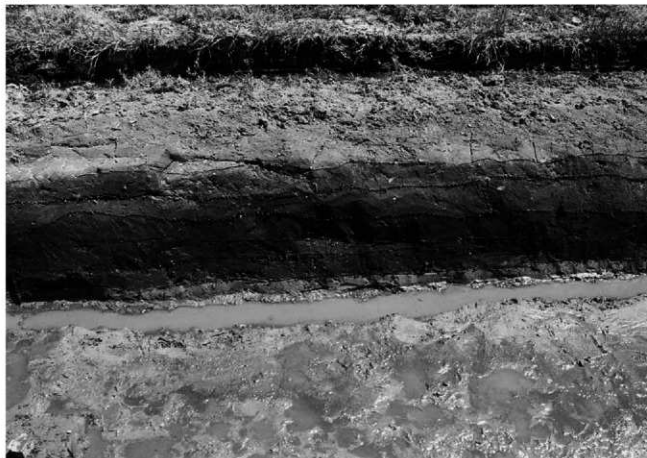
第3表 木製品観察表



4区 遺物出土状況



6区 遺物出土状況



1区 調査区東壁土層断面（西から）



3区 調査区東壁土層断面（西から）



6～7区 調査区東壁土層断面（西から）



9区 調査区東壁土層断面（西から）



12区 調査区東壁土層断面 (西から)



3～5区 完掘状況 (南から)



6～7区 完掘状況（北から）



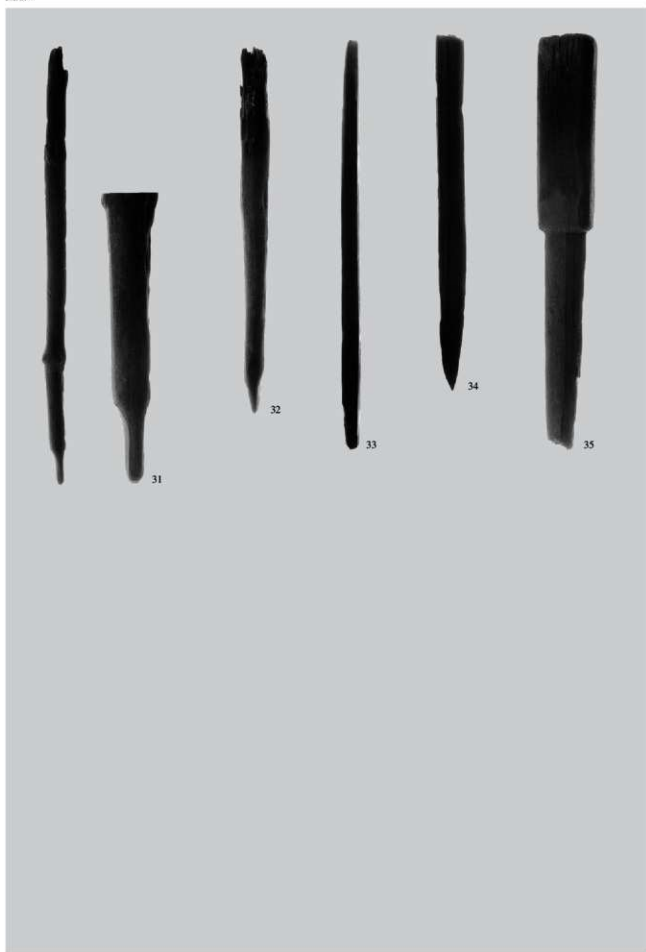
9～12区 完掘状況（南から）

图版 6





图版 8



報告書抄録

ふりがな	すずしみなみかたいせき							
書名	珠洲市南方遺跡							
副書名	県営ほ場整備事業（上戸地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	宮川勝次							
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL076-229-4477							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	平成17年3月31日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯 (新)	東経 (新)	調査期間	調査面積	調査原因
あまの 南方遺跡	いしかわの 石川県 すず 珠洲市 うへま 上戸町南方	17205		37度 25分 17秒	137度 14分 47秒	20010803 ～ 20010905	260㎡	県営ほ場整 備事業
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
南方遺跡	集落跡	古代 ～中世	溝、小穴	須恵器、土師器、珠洲 焼、下駄、杓子形木製 品				
要約	今回の調査では遺構密度が希薄であること等から詳細な遺跡像は把握できなかったが、遺構の状況や周囲の地形を考慮すると、集落域は調査区の北西方に展開していたと考えられる。周辺には官衙関連遺跡と考えられている北方E遺跡等が存在しており、関連性が注目される。							

珠洲市 南方遺跡

発行日 平成17（2005）年3月31日
 発行者 石川県教育委員会
 〒920-8675 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
 電話 076-225-1842（文化財課）
 財団法人石川県埋蔵文化財センター
 〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
 電話 076-229-4477
 E-mail address mail@ishikawa-mibun.or.jp
 印刷 株式会社ハクイ印刷